

お知らせ

教室のご案内

平成24年より教室を受けられた場合、健康保険適用となりますので、初・再診料・集団指導料の一部負担金をお支払いいただくことになります。ご了承くださいませようお願いいたします（飲食のある場合は別途材料費をいただきます）。

〈教室参加の流れ〉

- ① 外来または入院病棟で予約を入れて下さい。
- ② 参加当日は直接、教室会場に入ってください。
- ③ 診察券を教室の受付に渡してください。
- ④ 教室終了後、自動支払機にて清算をしてください。

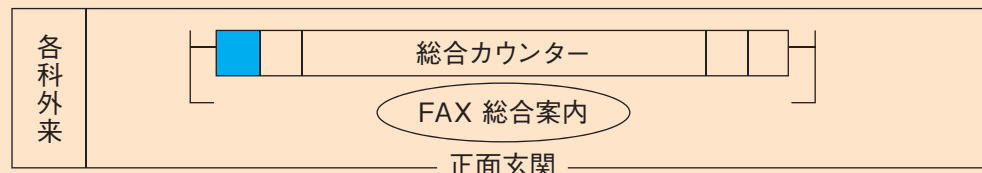
◆ 糖尿病教室

【開催日】
平成26年12月19日（金）、平成27年1月16日（金）
【開催時間】
9:00～13:00
【場所】
伊勢赤十字病院 5階 会議室7
【参加費】
500円（昼食あり）
【お問い合わせ・申し込み】
伊勢赤十字病院 糖尿病・代謝内科 外来 3番受付

◆ 肝臓病教室

【開催日】
平成27年2月9日（月）「C型肝炎の診断と治療」、
平成27年5月11日（月）「慢性肝炎の診断と治療」
【開催時間】
13:30～15:30
【場所】
伊勢赤十字病院 5階 会議室7
【お問い合わせ・申し込み】
伊勢赤十字病院 肝臓内科 外来 3番受付

【5階 会議室7のご案内】



ブルーのエレベーターにて5階へお上がり下さい。5階受付にて会議室7をご案内します。

ちょっと役立つ豆知識

【栄養クイズ】？

次の油のうち、一番カロリーが低いのはどれでしょう？

- ① サラダ油 ② オリーブオイル ③ ゴマ油

答えは…どれも同じカロリーです。オリーブオイルは健康に良いから、低カロリーと考えた方はいらっしゃいませんか？今回は、オリーブオイルについて正しい知識を学びましょう。



● ワンポイント 栄養指導～オリーブオイルって体にいいの？～

オリーブオイルに多く含まれる脂肪酸はオレイン酸という一価不飽和脂肪酸で、HDL（善玉）コレステロールを下げずに、LDL（悪玉）コレステロールを下げる働きがあり、動脈硬化や心臓病、高血圧の予防に効果があるとされています。また、油は熱に弱く、酸化されやすい特徴がありますが、オレイン酸の含有率の高い油は酸化されにくいので、オリーブオイルは加熱調理にも安心して使えます。その一面から、オリーブオイルは健康に良いと考えられがちですが、過剰摂取はエネルギー過剰になり肥満を招くので注意が必要です。カロリーは他の食物油と同じ、大さじ軽く1杯（約10g）≒80kcalです。また、オレイン酸は体の中で合成することができるので多く摂る必要はありません。コレステロールを下げるからと、過剰摂取にならないよう注意しましょう。

● オリーブオイルについて豆知識

「バージンオイル」と記載されているものは低温圧搾法による一番搾りで加熱されていませんので、より新鮮。「エクストラバージンオイル」はオレイン酸含有量が多くなっていますのでおすすめです。

Nisseki News

— 日赤ニュース —

2014年 No.54

無料・ご自由にお持ちください

理 念

人道に基づき赤十字病院として質の高い医療を提供します

基本方針

1. 人道を掲げる赤十字の原則に基づき、人々の健康と生命の尊厳を守ります
2. 人権を尊重します
3. 個人情報保護に万全を尽くします
4. 医療水準の向上に努め、最善の医療を提供します
5. 地域医療機関との連携により、個人に合った適切な医療を提供します
6. 救急医療の充実に努めます
7. 災害時の医療救護や国際救援に貢献します
8. 健全な運営に努め、未永く地域社会に貢献します

トピックス

ノロウイルスにご用心

部門紹介

脳卒中ケアユニット

病院の動き

厚生労働省より「救急医療功労賞」受賞

地域とともっとクロス

おかげさまプロジェクト in 神島

お知らせ

教室のご案内



日本赤十字社 伊勢赤十字病院

ノロウイルスに ご用心！



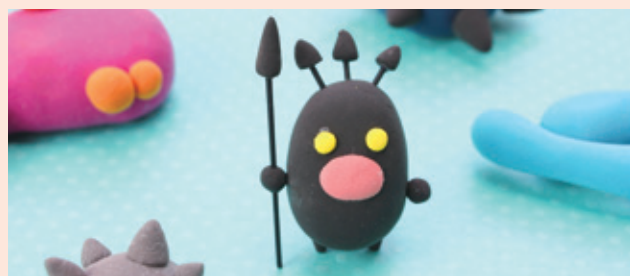
『ノロウイルス』は、冬季を中心に発生する感染性胃腸炎の原因となるウイルスです。感染力が大変強く、特に乳幼児や高齢者が重症化することもあるので注意が必要。正しく理解して感染を防ぎましょう。



こまめな手洗いで感染予防！

? ノロウイルスって何？

ノロウイルスとは、非細菌性急性胃腸炎の原因となる「小型球形ウイルス」の一種で、100個以下のウイルスでも感染してしまうほどの強力な感染力をもっています。例えば、感染者の便1gには1億個以上、おう吐物1gには100万個以上のウイルスが含まれているので、取り扱いには十分な注意が必要です。



? 感染するとどんな症状があるの？



感染後、1～2日間の潜伏期間の後、おう吐、37℃台の発熱、腹痛、下痢などの症状が現れます。感染するとウイルスは1週間程度ふん便とともに排出されます。重症化しやすい子どもや高齢者の場合、おう吐や下痢などが続くことでぐったりしたり、唇が乾くなど症状が現れることもあります。そんな時はすぐに医療機関で受診しましょう。

? どうやって感染するの？

ノロウイルスは、人から人への感染と汚染した食品を介して感染する場合があります。①感染した人の便やおう吐物に触れた手指を介してウイルスが口に入った場合、②感染者の便やおう吐物が乾燥して細かなチリと一緒に舞い上がり、そのチリと一緒にウイルスを体内に取り組んだ場合。感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合、③ウイルスを内蔵に取り込んだカキやシジミなどの二枚貝を生や不十分な加熱処理で食べた場合。



? 有効な予防法は？



ノロウイルスの感染予防は、手洗いが基本。外出後はもちろん、トイレの後、調理や食事の前など、必ず手を洗うようにすることが大切です。石けんを使い十分に30秒を目安に十分にこすり洗いをし、水で洗い流すことでウイルスを大幅に減少させることができます。手指消毒アルコールでは十分な効果が得られないので要注意。特に、感染者のおう吐物やふん便を処理する際は、塩素系消毒液を使うようにしましょう。

放射線診療の 最前線

地域の放射線診療への貢献 放射線安全管理ネットワーク

当院では地域の診療所等の医療用放射線の量を測定するなど、放射線の適切な利用についてのサポート活動を行っています。地域のつながりを大切にするとともに、安心安全な放射線診療の実現を目指しています。



当院では先進の放射線医療機器を備えるとともに、院内外での研修や学会に積極的に参加し、スキルアップに努めています。日頃から装置の安全管理を行うことにより、診療に対し有効な最小限の量の放射線での診断画像の提供や、精度の高いがんの放射線治療を実施しています。また、救急医療にも力をいれ診断・治療に万全の体制で臨んでいます。

主な機器紹介

『CT』 低被ばくで高精細な撮影が可能になった最新CT



放射線を利用し、体の断層像を精密に表示する装置。CT画像を利用して多方向からの観察や3次元的な画像表示も可能です。特に最近の技術を駆使することで大幅な被ばくの低減を実現した高性能機器です。

『PET/CT』 PET検査と同時にCT検査が行える最新鋭機器



微量の放射性物質を含んだ薬剤を体内に注入し、体内のがん細胞の代謝や機能を調べます。PET検査と同時にCT検査が行える最新鋭機器『PET-CT』です。検査時間の短縮はもちろん、PETとCT画像を重ね合わせることで、診断精度の大幅アップを実現します。

『放射線治療(リニアック)』 より正確な放射線照射を実現したがん治療機器



腫瘍の大きさや形に合わせた放射線照射が可能な、高精度放射線治療に対応したがん治療装置。位置確認用のX線撮影を行い、からだの傾きなどの補正を自動で行うベッドを搭載しており、高精度で正確な治療を実現しています。

『マンモグラフィ』 認定スタッフによる高水準の検査を提供



触診だけではわからない小さな病変発見に効果的なマンモグラフィ。当院では、医師や技師、施設が「マンモグラフィ精度管理中央委員会」の認定を取得。より高水準の検査や診療を行っています。



脳卒中センター
3300～3330



24時間365日体制で 脳卒中患者さんに対応

脳卒中センター SCU (脳卒中ハイケアユニット) の看護

平成26年5月に開設した脳卒中センターでは、脳神経外科・脳血管内治療科・神経内科を一つのチームとして、365日24時間体制で対応。各科の医師をはじめ、救命救急センター、看護師、放射線技師、リハビリ療法士など、多数の専門スタッフによる医療を提供しています。また、入院初期の段階からリハビリや回復期、退院後を視野に入れて看護することで、その後の生活レベルの維持向上を目指しています。



看護師長：豊田直美

専門的な知識と質の高い看護の提供を目指して頑張っています

脳卒中センターでは、急性期に対応できるSCUと、回復期～リハビリ期まで継続した看護を行っています。脳卒中は発症早期の治療やリハビリテーションが、その後の回復具合を左右するといわれています。SCUでは、3対1の手厚い看護体制をとっており、症状の細かい観察を行い、突然発症した病と闘っている患者さん方の一日でも早い回復を願っております。



脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師：畑中佑介

患者さんに寄り添った看護を提供するため、日々スキルアップに努めています

私は、2014年に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師となりました。現在は脳卒中センターに勤務しています。脳卒中は突然発症し、ご本人はもとよりご家族も状態の変化に悩まれることと思います。安心して入院生活が送れるように支援し、自宅での生活や社会に復帰できるよう多職種と協働しリハビリテーションを進めています。日々、回復に向かう患者様の笑顔に支えられ、活動しています。

救急医療に対する取り組みが評価 「救急医療功労賞」受賞

当院は、重症患者を受け入れる「二次救急」、重篤な救急患者を受け入れる「三次救急」を行っています。二次救急では、病院群輪番制病院として、三次救急では、救命救急センターとして、24時間体制で対応。平成24年2月からはドクターヘリの基地病院としての役割も果たしています。これらの取り組みが評価され、今年度の「救急医療功労賞」を受賞。この賞は、厚生労働省が地域の救急医療の確保や救急医療対策の推進に貢献した医療機関などを表彰するもので、今年度は当院を含め15団体と個人22名が受賞しました。



9月11日、当院にてドクターヘリ給油設備・車両倉庫・防災倉庫竣工式が挙行されました。ヘリポートにて、植田隆三重県副知事、佐々木孝治三重県健康福祉部医療対策局長、野呂昭彦日本赤十字三重県支部長らによるテープカット、模擬の給油作業が行われました。その後、多目的ホール「やまだ」にて、村林院長による式辞、植田副知事、野呂支部長による挨拶があり、設計者による施設概要の説明も行われました。



第一陣ベトナム人看護師候補者 2名が伊勢赤十字病院へ

日越交換公文(日越EPA)に基づく第一陣ベトナム人看護師・介護福祉士候補者が6月6日来日。約2カ月間の日本語研修を終えた2名の男性候補生が伊勢赤十字病院へ入職しました。村林院長は「ようこそ、伊勢赤十字病院へ」とあたたかく出迎え、握手。候補者の二人が、「私たちは、まだ日本語が上手ではありません。国家試験も日本語も一生懸命勉強して頑張ります」と話すと、院長は「みんなで君たちを応援します。困ったことがあったら、誰でも助けてくれます。頑張ってください」と激励。彼らは伊勢赤十字病院で看護助手として働きながら、日本の看護師国家試験合格を目指します。

ウガンダ赤十字・日本赤十字二国間 ウガンダ北部医療支援事業派遣報告 ICU・CCU/HCU 看護師長 東恵理



今回派遣となった病院はアフリカのウガンダにあるアンボロソリ医師記念病院です。このウガンダは20数年続いた内戦が2008年に終了し、今も紛争からの復興・開発段階にあります。そのため2010年より日本赤十字社はウガンダ赤十字社との2国間事業で医師を派遣し医療支援を行ってきました。そして2013年からは、常に医師1名、看護師2名、薬剤師1名を派遣しています。

今回、私は、2014年5月4日～10月2日の約5か月間、手術室の立ち上げや医療サービスの質改善のために派遣となりました。残念ながら手術室は建築が遅れ、私の派遣中には完成しませんが、中央滅菌室のシステム作りや、新手術室に向けて準備をしてきました。また、現手術室の器械の多くが錆びていたため、それらの器械の排除や、必要な器械の標準化を行い、滅菌室や手術室スタッフへの医療サービス改善のための指導・助言も行ってきました。

活動する中で、現地の人が自立し、また維持していくことができる方法を取り入れるのは非常に難しく感じましたが、現地のスタッフはとても暖かく受け入れてくれ、熱心に取り組んでいました。2016年までこの事業は継続します。今後のアンボロソリ記念病院の活躍と発展を祈りたいと思います。

医療充実のために、地域とともに

「クロス(地域連携)」とは、地域と医療機関がともに手を携え、地域の医療を守っていくこと。伊勢赤十字病院は、それに向けてさまざまな取り組みを行っています。

これまでの地域医療は「病院完結型医療」で、軽度から重度まで全ての患者を一つの病院で診療することが主流でした。このシステムは、医師の疲弊や偏在を生み、国による医療費の抑制なども重なり、地域医療の崩壊が叫ばれるようになりました。これからの医療に求められるのは、「地域完結型医療」です。そのためには、地域の医療機関が救急医療、在宅医療などの機能を分担する「機能分化」と、かかりつけ医を中心とした日常的な医療を基盤とした「医療連携」が求められます。



迅速な救急搬送のため、脳卒中・心臓病を知ろう！ おかげさまプロジェクト in 神島



当院では、9月11日、神島の住民を対象とした、脳卒中・心臓病についての講演を開催しました。昨年度も「出張栄養指導、リハビリ指導などを行いました。神島での取り組みは今回で2回目となります。早期治療が重要な脳卒中や心筋梗塞などの急性期疾患の基礎的な知識をつけることが迅速な患者搬送に結びつき、専門医による診断・治療方針の早期決定を促すことにつながります。

鳥羽市では約2割の住民が離島生活を送り、島ごとに設置された診療所に勤務する医師がかかりつけ医として、島民の健康に尽力しています。急性期病院への受診が必要な場合、船舶によって最寄りの漁港から救急搬送されていますが、三重県が実施するドクターヘリ事業により、脳卒中や心筋梗塞をはじめとした超急性期治療の必要な患者の救急搬送が行えるようになりました。今後も迅速な救急搬送が行えるよう啓発活動を行い、地域医療に貢献していきます。



地域の中学生・高校生の夢をみんなで応援！！ 医療の現場体験ツアーを開催



医療の現場体験ツアーは、実体験を通じて地域の医療を担う次世代の医療教育、中高生の進路決定や学習のモチベーションアップの試みとして企画しました。8月6日には県内の高校生139名、8月19日には伊勢市内外の中学生35名(内、1名は鳥羽市小学生)が参加。各職種が自分の仕事について説明し、いのちを救うわざのゾーンでは心肺蘇生、AEDの体験、放射線技術体験ゾーンでは、最新の医療機器を実際に使用して、身近なものを撮影し画像処理、ほかにもドクターヘリの見学、トリアージの体験などが行われました。「命を助けることについて改めてしっかりと考えられたし、技術の進歩にも驚きました」という体験を通した感想に、私たちも身の引き締まる思いがしました。

平成26年12月6日 来場者数 約2,700人を超える 「第2回 ゆずりは祭 -地域愛 いつも心におかげさま♥-」開催

日頃の地域住民の皆さんのご理解・ご協力への恩返しとともに、もっと地域の皆さんに親しんでもらいたいという想いから、昨年度から開催した病院まつり。第2回目の「ゆずりは祭」は、人気のドクターヘリ見学をはじめ各ブースで、子どもからお年寄りまで、見て、体験して、楽しんでいただける工夫を凝らしました。

参加者からは「目の前で見えるドクターヘリは迫力があってかっこいい!」「心肺蘇生を初めてして難しかったけど、勉強になりました!」などの感想をいただきました。今後も伊勢赤十字病院は地域で愛され続けることができるよう、当院の役割をしっかりと認識し、日々の診療の中で、果たしていきます。

内容

【ステージ】

- ・のぞみ保育所による歌
- ・三重大バンドサークルによるバンド演奏(Sunny All Stars)
- ・観光戦隊イセシマショー
- ・クイズ大会
- ・演歌ステージ 中西 りえ
- ・バイオリン演奏 山崎 可奈
- ・大形 弘マジックショー
- ・伊勢混声合唱団

【救急コーナー】

- ・体験ブース
BLS(一次救命処置)・・・AED、心肺蘇生
救急講座(三角巾での手当)
- ・施設見学
- ・ドクターヘリ見学

【体験・健康相談コーナー(医療展)】

- ・測定します!身体年齢
- ・エコー体験
- ・静脈可視化体験
- ・栄養相談
- ・なりきりキッズ体験(白衣に着替えて写真撮影)
- ・いやしのハンドケア
- ・心理学展示コーナー・体験コーナー
- ・似顔絵コーナー
- ・写真あてクイズ～これはどこの骨かな?～
- ・クイズ～おくすりはどのだらどうなるの?～
- ・ハンドクリーム作製体験
- ・漢方薬展示
- ・聴診体験～なにが聴こえるかな?～
- ・折り鶴・点字体験コーナー
- ・献血紹介
- ・放射線&CT技術体験ツアー
- ・放射線画像展示
- ・臓器移植について知ろう
- ・病院で働く機械たち

